

11月18日（月）

ことばの力

聖書朗読 エペソ4：25～32

ことば数が多いところには、そむきの罪がつきもの。自分のくちびるを制する者は
思慮がある。 箴言 10：19

マーク・トウェインはこのように言っています。「口を開いて疑問を解消するより、口を閉じたままで愚かに見られるほうがまだいい」。しかし、これは彼がただイスラエルの賢人の知恵を真似たものに過ぎません。そのイスラエルの賢人はこのように述べています。『愚か者でも、黙っていれば、知恵のある者と思われ、そのくちびるを閉じていれば、悟りのある者と思われる。』（箴言17：28）

自分の舌を制するのに苦労しているのは私だけではないと思います。これまでに口にしてしまった言葉のうち、撤回したいと思うものが山ほどあります。けれども、残念ながら撤回することはできません。皆さんも同じではないでしょうか。

聖書には、言葉は、建設的にも破壊的にも用いられうることが多く語られています。沈黙を身に着けなさいという戒めは、私のようにお喋りを楽しむ人間にとっては箴言から示される教訓となっています。また別の箴言の箇所では、口にする言葉を慎重に考え、他の人を励ますことばだけを語るようにと教えています。もし、話を途中でやめることが出来そうもなければ、話を始める前に一呼吸置いて10を数え、これから話そうとすることが真実かつ善なるものか、役に立つものかを自分に問うことは出来るでしょう。神様は、私たちのことばの内に働いて、みこころを成してください。

讃美歌 第二編 173

祈り 親愛なる父よ。今日私たちの語る言葉が、相手を傷つけたり軽蔑したりするものでなく、心を癒し益するものとなるようにしてください。思慮の浅い、思いやりのない言葉を発してしまったならどうかお赦してください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

アンディ・ウォール
カリフォルニア州 オークパーク

今日の力

2013年11月18日～11月24日

翻訳 藤岡伸子

編集 岩田欣三

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

11月19日(火)

神の武具

聖書朗読 エペソ6:10~18

邪悪な日に際して対抗できるように・・・神のすべての武具をとりなさい。

エペソ 6:13

警察の特殊部隊は、あらゆる危機のシナリオに備えておくことが大切である事を心得ています。彼らは、並々ならぬ訓練を行い、様々な戦略を検討し、自らのテクニックを完璧に磨き上げるのです。けれども、実際にバリエードを築く事態や群集が暴徒化する事態に直面すると、部隊の警官らは、訓練が十分ではなかったことに気づかされるものです。彼らはそのような危険な事態に立ち向かう際には、必ず、保護具を身に着けます。防弾ヘルメット、ベスト、盾、戦術用グローブ、ブーツ、そして攻撃用ライフルで武装するのです。弾が少し逸れただけでも、また、ちょっとした計算違いでも、それは重傷を負うことにつながり、また、死さえも意味することを彼らは心得ています。

クリスチャンの霊的な闘いにも、同じことが言えるのではないのでしょうか。私たちは、主にある兄弟姉妹らとともに、この世の様々な誘惑や危険にどう対処したらよいか、話し合うことが出来ます。けれども、戦略を練っても装備がなく完全武装していなければ、十分とは言えません。完全に武装して命を守るのです。神様の武具を身に着けずに仕事や学校に行ってはいけません。真理のベルト、義の胸当て、平和の福音のブーツ、信仰の盾、救いのヘルメット、そして霊の刀を身に着けることによって、日々私たちを取り巻く悪霊の力から身を守ることができるでしょう。

ですから、今日の闘いを始める前に、身を守る保護具を必ず身に着けましょう。それにより、命が守られるのです。

讃美歌 181

祈り 主よ。あなた様の何にも優る御力と悪に対する勝利を、私たちが過小評価することがないようにしてください。あなた様がお与えくださった霊の武具を感謝します。どうかそれを完全に、大切に用いることが出来るようにしてください。

イエス・キリストによって祈ります。アーメン。

ジャン・ノックス

テキサス州 グランバリー

11月20日(水)

頭痛それともアスピリン？

聖書朗読 ペリピ 2:3

何事でも自己中心や虚栄からすることなく、へりくだって、互いに人を自分よりもすぐれた者と思いなさい。

ペリピ 2:3

先日書棚に、目を引くタイトルの本を見つけました。「アスピリンか、それとも、頭痛か」。私はこのタイトルを見て、周囲の人への自分の影響はどんなものかと考えさせられました。

どちらなのか考えてみましょう。自分は周りの人にストレスを感じさる存在か、それとも、ストレスを感じている人に平安を与える存在か。自分が共に居ることで相手が喜んでるか、それとも、相手を憂鬱な気持ちにさせていないか。

イエス・キリストを証する特権と機会がせっかく与えられているのに、気後れするか、自信がないとか、自分の信仰が弱いからという言い訳をしていないだろうか。それとも、機会を無駄にせず、自分が受けている主の愛、恩寵、恵みを聞こうとする人にきちんと伝えているだろうか。誰かが建設的でない会話を止めようとしないうちに、その場を立ち去っているだろうか。日々神様に助けを求めているだろうか。

ゴシップに耳を傾け仲間に加わっていないだろうか。それとも、ゴシップのターゲットにされている人物を守る側に回っているだろうか。絶えず熱心に祈り、神様の答えを忍耐強く待っているだろうか。自分の望むとおりに祈りがすぐ答えられないとき、神様のみこころが成されるのを待たずに、自分の意志を通そうとしていないだろうか。

自分の行動や姿勢が周囲にどのような影響を与えるか考えてみましょう。頭痛を引き起こす存在なのか、それともアスピリンのような鎮静剤になっているのか。自分はどちらだろうか、と。

讃美歌 第二編 26

祈り 主よ。自分が周囲の人にとって悩みの種になったり、相手を不快な思いにさせたりするのではなく、相手の役に立つ存在とならせてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ユーゲニア・キゼール

ヴァージニア州 アーリントン

11月21日(木)

無名の英雄

聖書朗読 ヘブル 11:32~40

神は、知恵ある者をはずかしめるために、この世の愚かな者を選び、強い者をはずかしめるために、この世の弱い者を選ばれたのです。また、この世の取るに足りない者や見下されている者を、神は選ばれました。すなわち、有るものをない者のようにするため、無に等しいものを選ばれたのです。

I コリント 1:27~28

これまでの歴史には、無名の英雄が数多くいます。彼らは英雄的な行いをしたにもかかわらず、全く世に知られていません。私は、そんな英雄を考えると、米国海軍大尉のチャールズ・ウィルクスという人物が頭に浮かびます。彼は、1838年から1842年にかけて、その当時は知られていなかった南大西洋、南太平洋の海域へ調査のために遠征に出かけました。346名の海兵隊とともに、南極大陸、太平洋に浮かぶ280の島々、そして北アメリカ西海岸まで遠征しました。彼らは、遠くの果てはニュージーランドやサモア諸島から、数多くの品々を国に持ち帰りました。ウィルクスと彼の驚くべき遠征調査旅行はあまり知られていませんが、彼は偉大な貢献を成した人物なのです。

聖書に登場する無名の英雄を考えてみましょう。ダマスカスのある奴隷の少女が、自分の主人であるナアマンに、預言者エリシャにより皮膚病が癒えることを伝えました。ダビデが息子アブシャロムの謀反によってエルサレムから逃れようとしたとき、忠実であったガテ人イタイ（異邦人）とアルキ人フシャイがいます。また、忘れてならないのは、名も記されていないパウロの甥です。彼は、同胞のユダヤ人が企てている獄中のパウロに対する策略を報告しました。

私たちは、自分が誰かということではなく、誰に属する者かということが大切なのです。また、私たちの所有するものではなく、私たちの所有者がどなたなのかという事が大切です。そして、究極の困難に直面した時でさえ、人の賞賛を得ることではなく、信仰深くあることが大切なのです。

聖歌 301

祈り 親愛なるお父様。この世のあらゆる謙虚な聖人らを感謝します。その多くは英雄として称えられる事はなかったけれども、静かに主に仕えた人達です。

イエス様のお名前によって。アーメン。

グローバー・シップ

テキサス州 オースティン

11月22日(金)

虹を喜ばれる神

聖書朗読 黙示録 4章

虹が雲の中にあるとき、わたしはそれを見て・・・

創世記 9:16

ヨハネは黙示録4:3で天国をこのように描いています。『御座の回りには、緑玉のように見える虹があった。』聖書には虹について書かれた箇所は6箇所しかありませんが、神は、光の現象について明らかに目を留めておられます。

黙示録では、虹が神の御座の回りを取り囲んでいるとあります。私たちは、この虹が緑であろうと想像しますが、ユダヤ人の文化では、ここで言う緑はもっと光り輝く色であったようです。虹ということばは、様々な色彩の幅・広がりを表しています。天国について描かれた様子も、将来の様々な出来事と同様、いつか知る時がくるでしょう。

神の御座を囲む虹は、栄光に輝く想像もつかないようなものなのでしょうけれど、私たちがこの世で美しい虹を見ているときにも、神は私たちと共におられるのです。神は、色を識別し様々な色の美しさを愛でる能力を授けて、私たちを創造なさいました。

虹は、神のノアとの契約のしるしです。今度皆さんが虹を見るとき、じっくり眺めてみてください。そして、神が約束を成し遂げられ、そこに共におられるのだということを実感してください。

いつか私たちもヨハネが入った扉を通って行き、神がおられるところで光り輝く虹を見ることでしょう。その時まで、神の驚くべき創造の御業を心に留め、神の愛に留まっていましょう。

讃美歌 488

祈り 親愛なる神よ。あなた様のご臨在、そして、絶えず目を留めておられることを実感し、私たちとともにおられることを知ることが出来るようにしてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

アル・コーネル

ウィスコンシン州 ヒルズボロ

11月23日（土）

転がりながらも先へ進んで

聖書朗読 ヘブル 13：1～8

わたしは決してあなたを離れず、また、あなたを捨てない。 ヘブル 13：5

普通、人は65歳にもなると、自転車に乗るより揺り椅子に座っている方が心地よいと思うのではないのでしょうか。ゲールとネル・サイモンというご夫婦はそうではありませんでした。たいていのシニア世代なら、近所のひとブロックも散歩すれば、もうその日の運動は十分と思うでしょうけれど、ゲールは愛する70歳になるネルとともに、ひとブロックよりもっと先へ旅することを決意したのです。彼らは2人並んで、ミネソタのベミジからルイジアナのヴェニスまで、自転車旅行に出かけたのです。その距離、実に2060マイルです。

その旅は一日60マイルのペースで35日かかりました。ミシシッピー川の上流をスタート地点とし、イタスカ湖畔を通り、湖に沿って南下し、ウォバッシュといった田舎町を通り、ミネソタのクリントン、ミズーリのケープ・ジラードー、アーカンソー、そしてルイジアナのバトン・ルージュへ。そして、メキシコ湾が彼らの終着地点でした。

多くの不安にかられ、挫けそうな時も、サイモン夫妻はただ、命の旅から外れることだけを恐れていました。どんな事態でも、竜巻さえも勇敢に立ち向かい、彼らはこの驚く旅を神の御手に委ねて信じて進んだのです。どこへ行こうと、神は私たちと共におられます。祝福された者が言うように、「神とともに進みましょう」。

讃美歌 405

祈り 主よ、私の旅路のあらゆる歩みにおいてあなたを信頼することが出来るようにしてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

マーク・R・ガイ

カリフォルニア州 ヴァレイホ

11月24日（日）

人生で大切なもの

聖書朗読 IIペテロ 1：1～11

神の愚かさは人よりも賢く、神の弱さは人よりも強いからです。

Iコリント 1：25

イエス様が、神のこの世についての見方をお話しされたとき、世の者は驚かされました。イエス様は、神の望まれるご性質を帯びながら伝道を始められましたから、イエス様の物事に対する姿勢は、この世の者が示すものとは全く正反対のものでした。今日では、ますますそのことが顕著ではないのでしょうか。イエス様のお言葉は、変えることも無視することもできないものです。

物事に対する姿勢や態度はその人を表すものです。イエス様は、地位や権威やお金は天の御国では全く重要ではないと宣言されました。そのようなものではなく、ただ、私たちを創造され永遠に愛してくださる父なるお方に、心から忠実に従うことこそ何よりも大切なのだとおっしゃっています。イエス様が強調されたその姿勢や態度は、善良、愛、喜び、平安、柔和、純粋さ、平和を求める心、誠実、慈愛、敬虔な心です。新しい天の御国とはどのようなものでしょう。このような姿勢や態度により、この世にあっても最良の最も恵みに満ちた生き方をすることが出来るでしょう。そして勿論天国でも。

今日、イエス様の視点で自らの生き方を見つめてみましょう。イエス様のみことばに従い、その生き方に倣いましょう。私たちは天の御国に住むことを覚えていきましょう。そうすることで、喜びに満ちた人生を送ることが出来るでしょう。

愛するということは、愛しがたい人を愛すること。

赦すということは、赦しがたい人を赦すこと。

信仰とは、信じがたいことを信ずること。

希望とは、あらゆることが絶望的と思われるときにあっても、

希望を持続けること。

——G.K. チェスタートン

讃美歌 第二編 16

祈り 天のお父様。大切な事柄においてどうか私を成長させてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

W・スコット・ウッドリー

テネシー州 キングストン